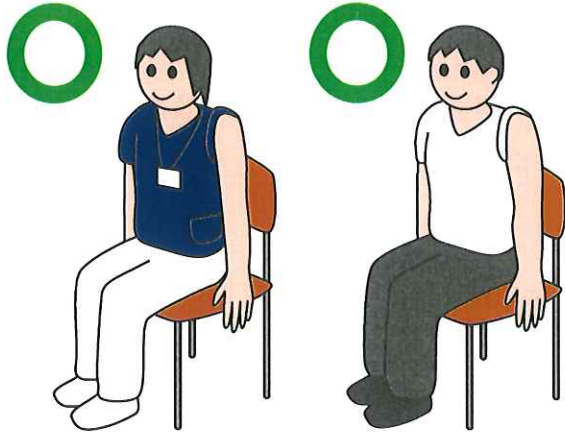




筋肉注射手技マニュアル v1.6

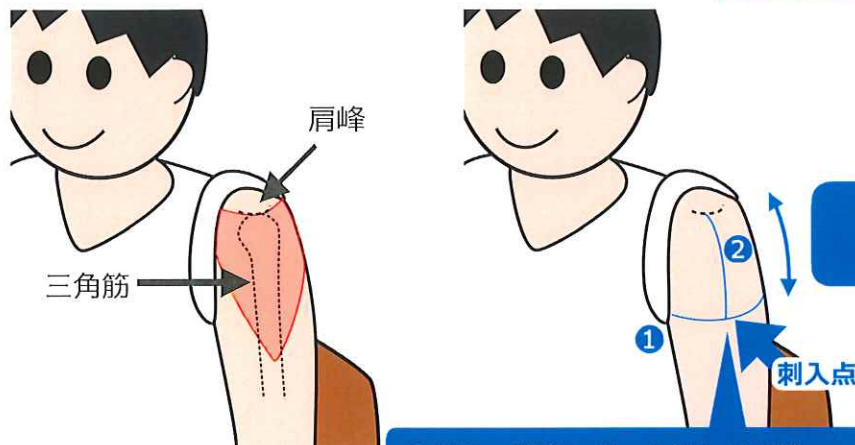


筋肉注射される者は背もたれのついた椅子に座り、肩峰から上腕までしっかり露出する。肘は自然に下ろした姿勢で、手のひらが体幹を向くように



橈骨神経を誤って穿刺する危険！

従来教科書に記載されている、「肩峰から3横指下」は、腋窩神経に当たる高さのため、好ましくない



約10cm前後になることが多い

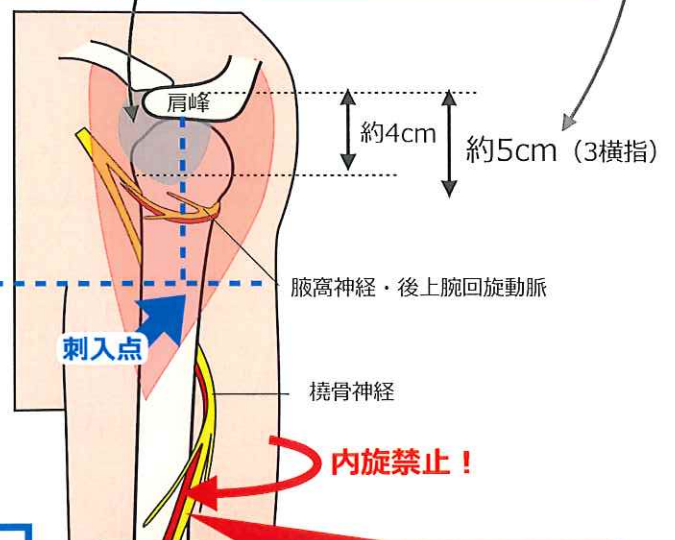
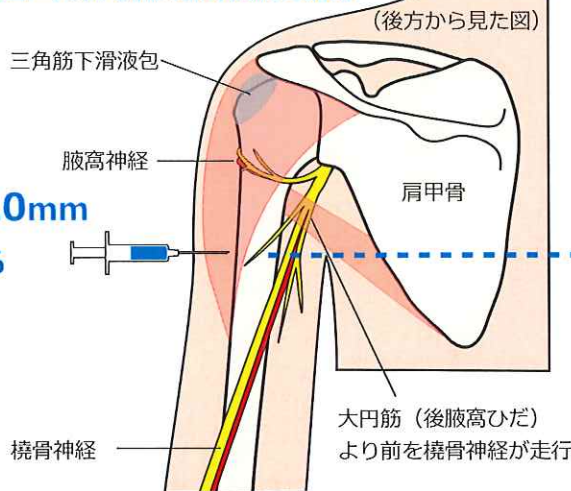
肩峰より平均約4cmまでの高さには、三角筋下滑液包が三角筋の裏に存在する。ワクチンの誤注入によるSIRVA (Shoulder Injury Related to Vaccine Administration)が海外で多数報告されており、穿刺を避ける。

まず肩峰と三角筋をよく触知しておく

- ①前後の腋窩ひだの上縁を結ぶ線（上腕と体幹が分かれる高さ）と、
- ②肩峰中央からの垂線の交点が刺入点

穿刺前にアルコール綿で刺入部の皮膚を消毒

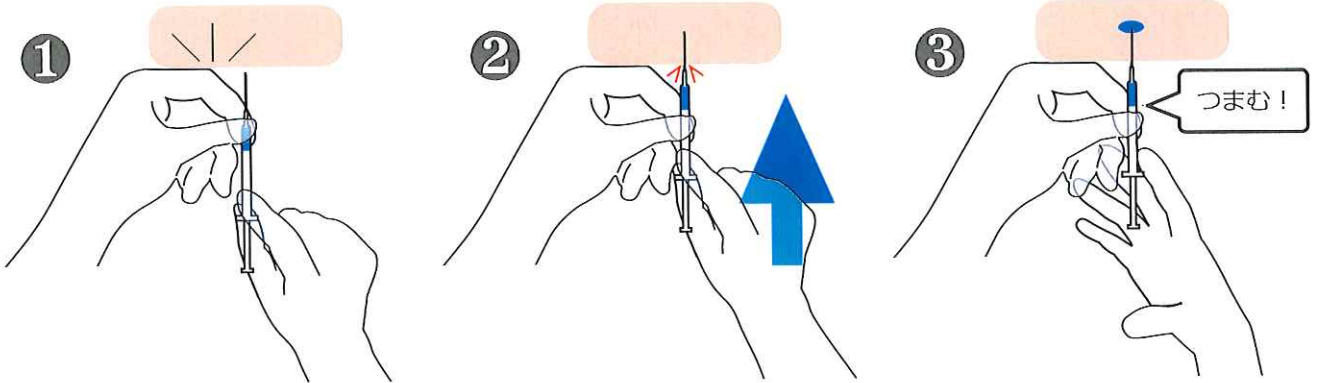
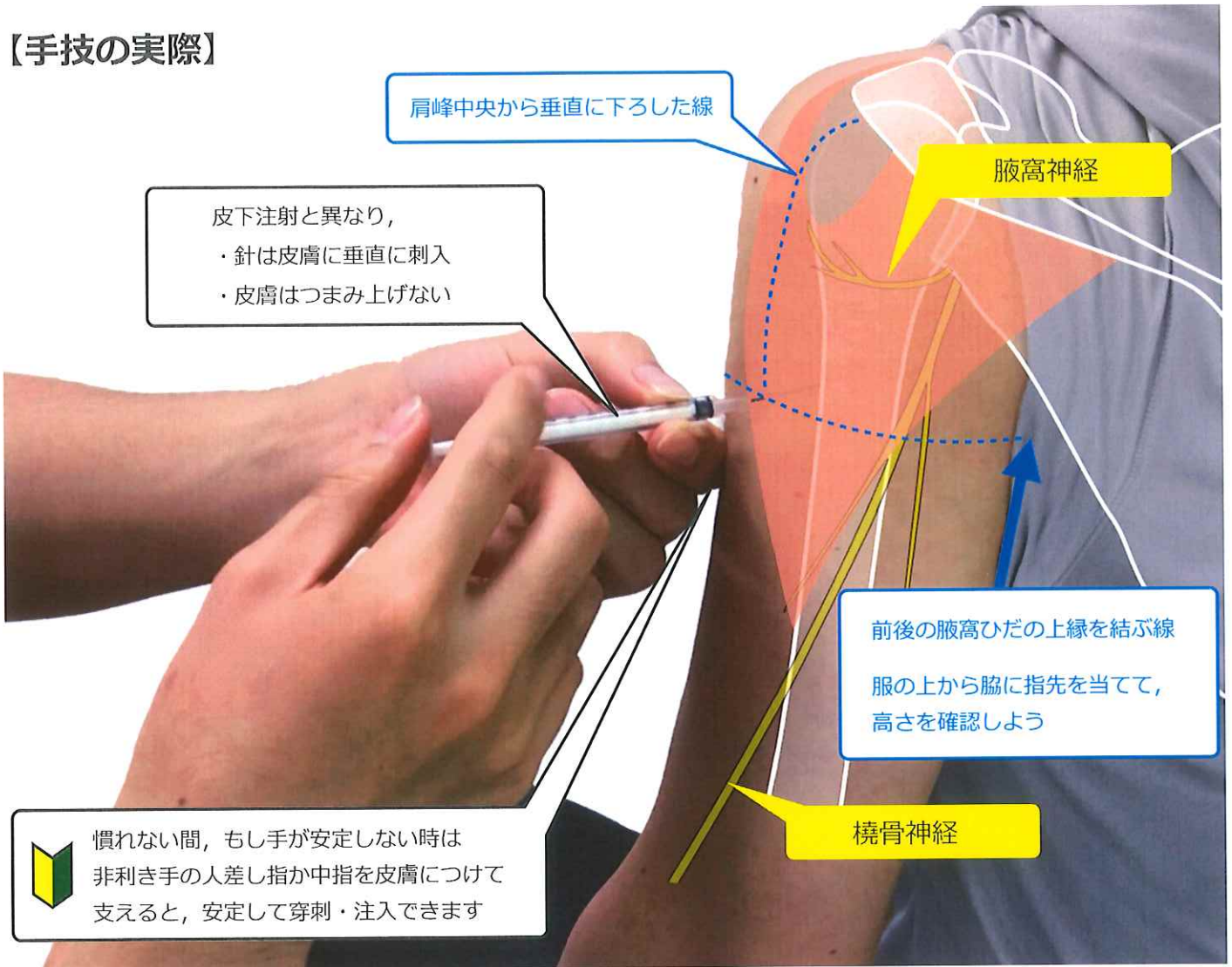
垂直に20mm
穿刺する



※肘を張った姿勢で、肩を内旋して注射すると橈骨神経を損傷する可能性がある

- 血液の逆流の確認は必ずしも必要ではない
- 骨に当たった場合は、2,3mm引き戻してから注入
- 強い痛みを訴えた場合は、針は一旦皮膚から抜くこと
- 注射後に揉む必要はない

【手技の実際】



狙いを定めて、左手でシリンジを保持
左手指の一部を皮膚に当てて安定化する

左手は動かさず、右手でまっすぐ
シリンジを動かして針を刺入する

左手でシリンジをしっかり持ち、
右手を持ち替えて、注入する

「刺した瞬間に、接種される人が動いたらどうしよう？」と、左手で腕をつかみたくなるかもしれませんが、
実際はそんなに動かれることはないです。むしろ刺入位置がずれたり、深く刺さりすぎたりしにくい方法です。

